

保護者の皆様方のアンケート調査結果や児童のアンケート調査結果等を受け、令和4年度の教育活動の成果と課題、来年度に向けて重点的に取り組んでいく対応策を以下のように示させていただきます。

◎教育活動 成果と課題

1 **確かな学力の育成**

【成果】

- ・「**学びの振り返り**」により、学習内容がさらに定着し、次時の学習へつなげていくことができるようになった。また、「**意図的指名**」の手法を明確にし、より主体的で深い学びにつながる**継続的な授業実践**を行うことができた。
- ・学年で研究授業に取り組み、相互参観授業をしながら、教員の授業力向上を図ることができた。
- ・本校の現職教育課題達成のために、外部講師を年間6回招いて算数の研修会や授業研究を行い、学習指導の力量向上につながった。
- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざし、学びタイムや面談の時間を利用し、計算練習や漢字スキル学習の充実に取り組むことができた。
- ・各学年の学習の定着（CRT）において、成果が上がっている。

【課題】

- ・他校への授業参観や研修会参加の機会を多くし、教師力の向上につなげたい。
- ・授業準備、机上の整とん、下敷きの使用、発表、姿勢、チャイム席など、学習のルール・マナー（学びのルール5か条）の指導が、学級間で差異があった。継続した指導が、引き続き必要である。

2 **豊かな心の育成**

【成果】

- ・特別の教科「**道徳**」の授業において、提示資料の活用や学年全体で**ローテーション授業**を行うなど、指導の工夫と効率化が見られさらに成果が上がった。
- ・オンラインでの人権集会や**低学年での人権教室**を実施するなど、道徳教育、人権教育の充実に努めた。
- ・いじめ・不登校の未然防止への取り組みや、いじめ・不登校・問題行動に対して、全職員で共通理解をはかり、適切な対応を心がけた。
- ・**年度途中より、図書室の入館者数制限をなくした。読書に進んで取り組む児童の割合が昨年度より高くなっている。**読書週間以外での図書館利用の呼びかけや授業での積極的な利用を今後も心がける。

【課題】

- ・あいさつ、時間を守るなど、基本的な生活習慣の確立について、引き続き指導が必要である。
- ・行事、授業において、**少しずつ体験活動を行うようになった。**来年度、**コロナ以前の体験活動の意義を改めて見直し**ながら、体験活動に取り組んでいきたい。
- ・高学年において、悩みごとなど相談できる先生の割合が昨年度に比べ低くなっている。面談週間だけでなく日ごろからの声かけや、**Q-U検査の結果を生かし**ながら、見守り体制を気付いていくことが課題である。

3 **健やかな体の育成**

【成果】

- ・体育の授業を中心に、体力づくり運動を進めた。
- ・縄跳び週間を設定し、中間放課に「リズム縄跳び」を実施し、体力の向上に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策について、感染レベルに応じて、手洗い・マスク着用・換気を徹底した。

- ・保健指導の中でKYTを行い、けがの発生について、未然防止に努めた。事故の防止について、今後引き続き指導が必要である。

【課題】

- ・体力の向上に関わる指導は、引き続き必要である。
- ・コロナの影響で体力低下がみられる。体力向上のためにも、運動週間の設定や外遊びを進めていく。

4 未来に生きる力の育成

【成果】

- ・自分の夢や目標をもっている（もとうとしている）児童が昨年度より多くなっている。
- ・GIGA スクール構想に基づいて、低学年からタブレット端末の活用スキルを高める実践を計画的・継続的に進めてきた。学習ツールとして、タブレット端末を様々な教科・場面で効果的に活用することができる児童が増えている。
- ・情報モラルについて、一昨年度作成した「末広小ケータイ・スマホ三か条」を情宣し、家庭に啓発した。

【課題】

- ・情報モラルについて、引き続き家庭への啓発とPTA・学校運営協議会との連携を図り、その充実に努めていく必要がある。
- ・外国語活動と外国語科の充実は、引き続き必要である。
- ・外国や日本の伝統文化に直接触れ合うなどの国際理解教育ができるようになってきた。来年度は、いっそう充実させていく必要がある。

5 信頼される学校づくり

【成果】

- ・必要な情報や学校の様子をよく伝えている。学校ウェブサイトやメールを活用し、学校生活の様子や必要な情報などを、発信した。
- ・コロナの状況を鑑みながら学校公開を行った。
- ・学校は子どもたちを理解しているという保護者の意見の割合は継続して高い。

【課題】

- ・「教育職員の業務量の適切な管理等に関する方針」に基づき、引き続き、多忙化解消に係る業務改善に努め、ワークライフバランスを図る必要がある。

◎来年度に向けての対応策

1 確かな学力の育成

(1) 授業力の向上・学力の向上

- ・「わかる・できる・身につく・活用できる」喜びのある授業を目指す。**学びの振り返り・意図的指名を継続し、子どもの考えを引き出し、全体に広げたり、深めたりできる授業を推進する。**
- ・読み取る力の向上、漢字・計算スキル学習の充実、家庭学習の習慣化に努める。
- ・学習のルール（学びのルール5カ条）、マナーの全校での共通理解を図り、指導を引き続き徹底する。
- ・一人一人に応じた適切な支援と指導の充実に努める。

2 豊かな心の育成

(1) 道徳教育・人権・福祉教育の充実

- ・道徳、人権集会、人権教室、福祉実践教室などを通して、互いに認め合い尊重しあう気持ちを育てる。

(2) 生徒指導の充実

- ・職員から進んであいさつしたり、**効果的なあいさつ運動を展開**したりするなど、日常のあいさつ習慣を身に付けさせ、自分から進んであいさつできる児童を育てる。
- ・廊下・階段歩行、時間、清掃、係活動、当番活動など、基本的な生活習慣の確立に努める。
- ・**Q-U検査の結果やアンケートを生かす**など、児童理解と人間関係の把握に努め、情報の共有化と全校体制での指導を強化・徹底し、いじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。

(3) 体験活動・読書活動の充実

- ・感動を味わえる直接的な体験活動の充実に努める。
- ・多様な読書活動を行い、意欲化を図る。

3 健やかな体の育成

(1) 体力の向上

- ・体育の授業を通して、体力の向上を図るとともに、外遊び等を進める。

(2) 健康教育、安全教育の充実

- ・保健指導を充実し、自分の健康に関心を持たせ、望ましい生活習慣を育む。
- ・危険予知トレーニング（KYT）、月ごとの避難訓練、登下校などの交通安全指導に努め、安全意識を高める。

4 未来に生きる力の育成

(1) 情報教育の充実

- ・コンピュータ・通信端末の低学年からの積極的な活用を図り、系統的・継続的な実践による情報活用能力の育成とともに、情報モラル教育の充実に努める。

(2) 外国語活動と外国語科の充実

- ・ALTとの連携を図り、外国語での会話や対話を通じてコミュニケーション能力を育てる。

5 信頼される学校づくり

- ・学習の足跡の掲示や黒板のメッセージなど、温かく潤いのある環境づくりに努める。
- ・創意工夫を生かした教育活動を進め、「**すてきな えがおを 広げよう**」の合言葉のもと、末広っ子としての誇りを育む。
- ・業務改善と**心の働き方改革**に努め、教職員のワークライフバランスを図る。